

# 水稻 流し込み 専用液肥

圃場に入らずらくらく追肥

た た らく  
**田田楽**

## ●こんな方におすすめ

1. 追肥しにくい大規模圃場で栽培している。
2. 施肥時間を節約したい。
3. 水田に入らずに施肥したい。
4. 登熟歩留まりを今よりも改善したい。

## ●流し込みに適している圃場

1. 湛水状態になるまで入水に2時間以上かかる大規模圃場。
2. 用水がバルブで管理できる圃場、またはパイプなどによる自然灌水可能な圃場。

<出穂 35 日前頃>

**田田楽PK**

秋落ち予防

**田田楽7-20**

籾数の安定確保

<出穂 25 ~ 10 日前頃>

**田田楽10号、15号、20号**

穂肥、籾数の安定確保、登熟向上

<出穂 15 日前頃>

**田田楽7-20**

弱勢穎花の登熟向上

時期と用途に  
合わせて使い  
分けてください



-35日

-25日

-15日

-10日

0

幼穂形成期

出穂期

## 田田楽シリーズ銘柄一覧 (荷姿: 正味 20kg)

| 銘柄       | 農林水産省<br>肥料登録番号 | N-P-K   | 標準施肥量(/10a)  | 施用時期(例)          |
|----------|-----------------|---------|--------------|------------------|
| 田田楽 10 号 | 生第 19443号       | 10-5-8  | 10kg(N1.0kg) | 出穂 25~10 日前頃     |
| 田田楽 15 号 | 生第 18855号       | 15-6-6  | 10kg(N1.5kg) |                  |
| 田田楽 20 号 | 生第 83555号       | 20-2-2  | 10kg(N2.0kg) |                  |
| 田田楽 PK   | 生第 81751号       | 1-12-10 | 20kg(N0.2kg) | 出穂 35 日前頃        |
| 田田楽 7-20 | 生第 19643号       | 7-20-0  | 20kg(N1.4kg) | 出穂 35 日前頃、15 日前頃 |

## 施肥量の目安 (田田楽15号の場合)

| 施肥 N 量    | 30a   | 40a   | 50a   | 60a   | 80a   | 1ha   |
|-----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 0.5kg/10a | 0.5 箱 | 0.7 箱 | 0.8 箱 | 1.0 箱 | 1.3 箱 | 1.7 箱 |
| 1.0kg/10a | 1.0 箱 | 1.3 箱 | 1.7 箱 | 2.0 箱 | 2.7 箱 | 3.3 箱 |
| 1.5kg/10a | 1.5 箱 | 2.0 箱 | 2.5 箱 | 3.0 箱 | 4.0 箱 | 5.0 箱 |
| 2.0kg/10a | 2.0 箱 | 2.7 箱 | 3.3 箱 | 4.0 箱 | 5.3 箱 | 6.7 箱 |

## ①圃場の準備



水位をひたひた程度まで落水。  
中干し後の場合は、土壌が水飽和  
状態の程度まで水を入れておく。  
完了したら、水尻から水が抜けない  
ように止める。

## ②液肥の準備



箱の穴からキャップを引っ張り出  
す。キャップの先に1～2mm程  
度の小さな穴を開ける。穴のあ  
るキャップがある場合は、それと  
交換する。キャップに穴が開けら  
れない場合はダンボールをはがし、  
液肥のポリ容器に1～2mm程度  
の穴を開ける。

## ③灌水の準備



バルブを開け、灌漑水を入れる。  
大規模圃場でバルブが2ヵ所以  
上ある場合、バルブ毎に設置する。  
バルブから同量の水が入るように  
調整する。

## ④設置場所の設営



入水柵の上に板を設置。  
または柵の前にプラスチック  
ケース（例：ビールケース、酒  
ケース）などを設置。

## ⑤液肥の設置



先の②で準備した穴が下にな  
るよう液肥の容器を板または  
ケース上に設置する。ポリ容  
器に穴を開けた場合、穴から  
出る液肥がダンボールに染み  
込まないように注意する。

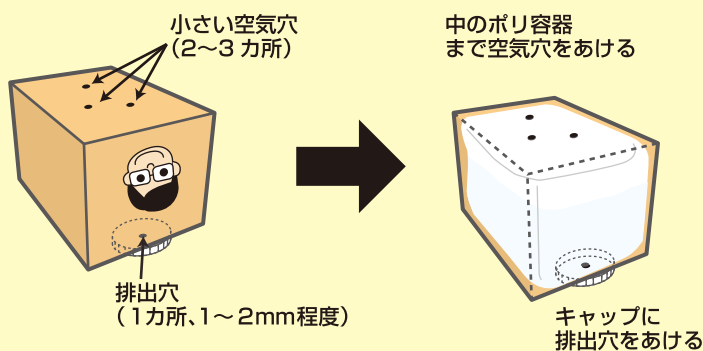
## ⑥液肥の流し込み



上部となった液肥ポリ容器の底に  
小さい空気穴を開ける。  
空気穴から空気が入り、液肥が流  
れ出すことを確認する。

②で準備した穴が1～2mm程度  
の場合、約2～3時間で空になる。  
肥料の投入が完了した後も水の勢

いで全体に肥料を拡散するため水位が5～7cmとなるまで  
入水続ける。所定の水位で灌漑を止める。  
その後、自然減水による縦浸透で肥料が土壌に吸着するよ  
う、3～4日間は入水や強制落水を控える。



## ⑦【参考】 パイプなどによる自然灌漑の例



流量は少ないが、肥料は均一に  
広がるため流し込み施肥は可能。

